

●文責：株式会社省電舎 小山田 明宏 奥村 由和(情報委員会)

前号では男性用無水小便器WATERFREEの仕組みについて述べましたが、今回はWATERFREEを実際に導入している南海電気鉄道(以下、南海電鉄)の例をとって説明します。

南海電気鉄道の削減効果

南海電鉄での本格的なWATERFREE導入は平成19年3月で、19駅76台を導入していただきました。日本市場での導入事例としては初めての大型物件で、本システムの開発メーカーであるFALCON社がアメリカの企業であることから、大阪の在大阪・神戸アメリカ総領事館で共同記者会見を実施しました。その際に発表された予想節水量は22,000トンで、これは鉄道事業の年間水使用量の6%にあたります。ところが1年後のプレス発表で公表された実節水量は年間33,256トンで、鉄道事業の年間水使用量の約10%と大きく予測を上回る結果になりました。実はこれはWATERFREEの導入による、もうひとつの節水効果が反映されたことによります。

WATERFREE導入による副効果

なぜ予想節水量を上回る削減効果が達成できたのか。その理由は本商品を導入したお客様全てに実施する清掃レクチャーにあります。レクチャーでは、WATERFREEと同様トイレ全体の清掃にも、なるべく水を利用しないよう指導をしています。これまでの駅舎のトイレ清掃では、便器や床にホースなどで直接水をかけて清掃していました。実はこの清掃方法は大量の水を消費するだけでなく、床などにこぼれた尿を結果的にトイレ全体に薄く広げてしまい、あの独特のアンモニア臭発生の原因となっていたのです。つまり水で綺麗にしていたと思っていた清掃が、逆にトイレ

空間全体に悪影響をおよぼしていたこととなります。また、排水管内に溜まる尿石にも水洗と無水では大きな違いがあります。無水の場合に排水管に堆積する物質は非常に柔らかい物資で、カートリッジ交換時にバケツなどの流水により取り除く事ができます。水に含まれているカルシウムが尿石の石灰化を促進し、排水管を詰まらせていたのです。この清掃方法をマニュアル化して全ての清掃スタッフに徹底する事により、大きな節水効果だけでなく衛生的なトイレ空間を実現することができたのです。

おわりに

弊社としては今後もパブリックスペースにWATERFREEを積極的に導入し、認知度を高めていきたいと考えています。実際南海電鉄で本商品をご利用いただいたお客様からの問い合わせや導入といった相乗効果もでてきています。

しかし海外に比べると日本の普及はまだまだ少なく、今後は前号で記述したアメリカのパサディナ市の補助金プログラムのような自治体を巻き込んだ仕組みづくりなどを行い、幅広いお客様にWATERFREEを導入いただき、節水を実感してもらいたいと考えています。



共同記者会見



南海難波駅

株式会社省電舎

ソリューション部 営業開発グループ
東京都港区芝大門2-2-11
tel:03-6821-0004 fax:03-5776-0404
URL:http://www.shodensya.com